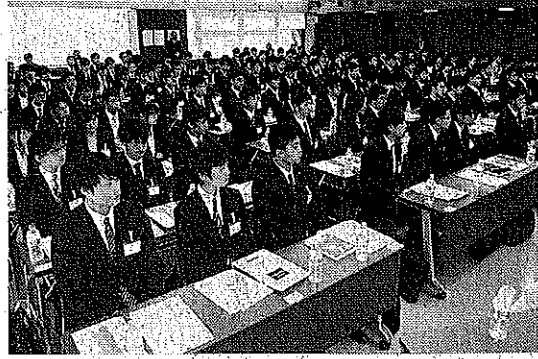


過去最多の148人参加

札幌建協が新入社員合同研修会



札幌建設業協会は13日、北海道建設会館で2

日間の新入社員合同研修会を始めた。過去最多の29社148人が参加。ビジネスマナーなど社会人の基礎知識を学び、仲間との交流を深めている。主催者を代表して岩田圭剛会長は「建設業は、社会資本整備を通じて地域の雇用や経済発展に貢

会場を埋め尽くす各社の新入社員

献する使命を持つている。地域の歴史をつくる仕事であり、夢と意義のある職業だと自覚してほしい。技術を身に付け資格を取得し専門性を高めるよう、時間を有効に使ってほしい」と激励した。合同研修は2000年

度から開始。接客や電話応対などのビジネスマナーと、入札契約制度や施工管理など建設業の基礎知識を講習している。協会が主催することで企業の負担を軽減するとともに、建設業で働く人材の資質向上を図っている。

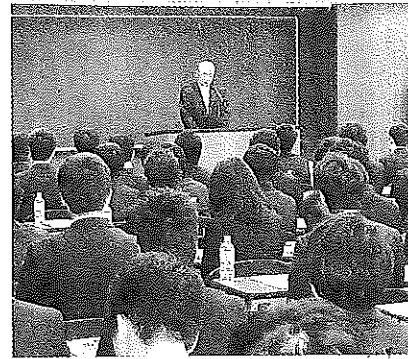
講師は日本コンサルタントグループ(本社・東京)建設産業研究所の加藤浩之所長と菅原政郎経営コンサルタントが担当。技術者の心構えやマナー体得を、ゲーム感覚の演習を交えて指導し

た。

北土建設(本社・札幌市中央区)に入社した北海学園大工学部卒の広沢優汰さん(22歳)は「この仕事で一番の喜びは、一般の人に喜んでもらうこと。先輩のように早く立派な仕事が出来たい」と目を輝かせた。

こぶし建設(同・岩見沢)の藤原和馬さん(22歳)も同学部卒。「子どものころに高速道路の建設現場を見て以来、憧れの職業。一日も早く戦力になれるよう頑張りたい」と決意を見せた。

札幌協が新入社員合同研修会、 プロフェッショナル目指して 初の試みとして交流会も



を変え、歴史を創っていくことができる。夢のある意義のある産業と自覚してほしい」と説

明。その上で、社会の要請にこたえていくための「自身の管理できる時間を使っ

さつした岩田会長は「一人に負けないものを作り上げ、プロフェッショナルを目指して」と参加者に呼びかけた。

一日目は建設現場で働く技術者としての心構えやマ

二日目は建設現場で働く意義のほかに、ビデオを活用して入札から竣工に至る業務全般の

研修会では主催者を代表して岩田会長があいさつシネスの基本についての研修が行われた。

講師は前年に引き続き、

一般社団法人札幌建設業協会(岩田圭剛会長)は、二十七年新入社員合同研修会を十三日から二十日の日程で、道建設会館の九階大ホールで開催した。真。会員企業二十九社から、過去最多の百四十八人が参加。研修に先立ちあい

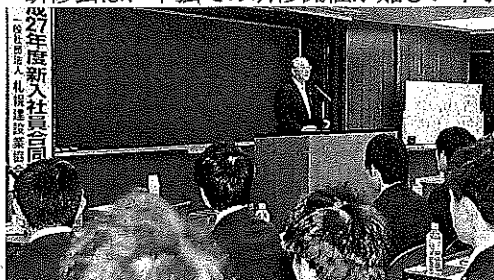
資本金整備を通じ地域の生活

講師は前年に引き続き、

朝採り+ぶらす

■札幌建設業協会が合同新人研修会 札幌建設業協会の会員企業の新入社員を対象とした合同研修会が13日、札幌市内で始まり、今春は過去最多の29社148人が建設業界での新たな一歩を踏み出した一写真一。

研修会は、単独での研修開催が難しい中小



企業を支援するため、同協会が2000年から毎年行っている。人手不足に伴う企業の採用意欲の高まりから、研修参加者は昨年より急増しており、今年は昨年より23人多かった。

2日間、ビジネスマナーや建設業の基礎を学ぶほか、今年は交流会も初めて企画した。悩みを語り合える仲間をつくってもらうことで、若者の早期離職を食い止める狙いだ。

この日の研修会で同協会の岩田圭剛会長は「つらいこともあるだろうが、目標に向かって努力すれば、頑張った良かったと思える時が来る。同期との交流も深めて」と呼び掛けた。